教職キャリア支援コース担当教員自己紹介

氏　名	教授　浅倉　有子（あさくら　ゆうこ）　asakura@juen.ac.jp	
研究領域キーワード	日本近世史　北方史　地域史　アーカイブズ学 女性史	
趣味・特技	美味しい物を食べること スポーツ観戦（特にテニス）	

自　己　紹　介

写真は、□□年前の私の写真です。先日片付け物をしていた時に出てきまして、自分で思わず、「何、これ！！　美人じゃん！！」と叫んでしまいました。従いまして、この写真を期待して入学されても「残念でしたー」ということになりますので、悪しからず。

私の専門は日本史です。特に江戸時代を専門としています。歴史学では、史料として古文書を中心に、考古遺物や絵画等、色々な資料を利用します。最近の私の研究テーマの一つが、「アイヌが用いた漆器の研究」で、いわゆるモノ資料を扱っていますが、モノ資料の取り扱い方をきちんと学んだことがないので、これが中々大変です。ご高名な先生とご一緒させて頂く時は、門前の小僧として、先生がおっしゃる一言一言をメモっております。

また史料・資料共に扱う時は史料・資料批判という作業が必要です。例えば、私のような素人は「写真は嘘をつかない」と思ってしまいますが、その道のプロからすると、写真は、様々な操作（ピントや露出等）やデジタル特有の歪みの成果で「加工」されているものであって、決して真実を写すものではないとのことです（「超音速備忘録」https://wivern.exblog.jp/21983797/を参照、閲覧日時 2018 年 8 月 20 日）。やはり、資料批判が必要ですね。

史料・資料に基づいて論じる・描くのが歴史学の醍醐味です。論じ・描くためには、日本語能力も必要で、漢字もめちゃくちゃ読んで頂きます。地図や地形図、エクセル等の表集計やイラストレーターも必要になるかも知れません。

ご一緒に禁断の道に入ってみませんか？

代表的な論文・著書

- 浅倉有子『北方史と近世社会』（清文堂出版、1999年）
- 共編著『歴史表象としての東アジアー歴史研究と歴史教育との対話』（清文堂出版、2002年）
- 浅倉有子「近世・近代における『上杉家文書』の整理・管理とその変容」（『新潟史学』第61号、2009年）
- 共編著『ぶら高田』（北越出版、2014年）
- 共著『幕藩政アーカブズの総合的研究』（思文閣出版、2015年）
- 浅倉有子「『初花肩衝』のゆくえ」（日本歴史 810 号、2015 年）

他

氏　名	教授　　上野正人(うえのまさと)　mueno@juen.ac.jp
研究領域キーワード	声楽　合唱　音楽劇　音楽教育
趣味・特技	・カメラ（主に風景。最近は野鳥や昆虫にもはまっている。必然的に登山，トレッキングも大好きです)。 ・自転車（京都にお気に入りの自転車店があり，現地で購入し、京都市内を乗り回してきました。） ・モーターサイクル（ハーレーダヴィッドソン・ロードキングを駆って，２泊３日 1000Km などをしています。）

自　己　紹　介

子どもの頃から音楽が大好きで，良くテレビの歌謡曲に併せて即興でソプラノ・リコーダーを吹いていました。小学校３年生の時に校内のオーケストラに所属。トランペットを担当しました。それから，中学校では吹奏楽に没頭しました。中学校３年生の時，吹奏楽コンクールの地区大会で地元の有力高校である福島県立磐城高等学校の演奏を聴き，進学を決めました。磐城高校では１年生の時，全日本吹奏楽コンクール全国大会において金賞を受賞し、ますます音楽と共にある生活となっていきました。高校卒業後、合唱指揮者であった辻正行先生のすすめもあって，声楽に転向し東京藝術大学に入学。同大学，同大学院，ドイツ・ライプツィヒ音楽演劇大学大学院課程を修了し，翌年本学に採用になりました。

略歴｜1965-福島県生まれ，1989-東京藝術大学音楽学部声楽科バス専攻卒業，1992-東京藝術大学大学院音楽研究科修士課程声楽専攻修了（修士（音楽))。1994-ドイツ・ライプツィヒ音楽演劇大学大学院課程修了。ドイツ国歌演奏家資格試験合格。1995-2005 上越教育大学助手。2001-2002 文部科学省在外研究員（ドイツ・デトモルト)。2005-2007 上越教育大学助教授，2007-2016 上越教育大学准教授，2016-現在，上越教育大学教授。
主な演奏会：2002-新潟ニューセンチュリーオペラ《てかがみ》竹田勇一役（上越文化会館，ほか 2005 まで計 5 回出演)，2004-糸魚川地域ニューにいがた里創プラン歌劇《奴奈川姫》大国主命・八重事代主役（糸魚川市民会館，計 2 回出演)，2005-ベートーヴェン第九交響曲演奏会バス独唱（台湾・台北市ナショナルコンサートホール)，2005-J.S.バッハ《クリスマス・オラトリオ》バス独唱（ドイツ・グラーフィング)，2015-バッハアンサンブル富山設立 10 周年記念演奏会 J.S.バッハ《マタイ受難曲》独唱（富山オーバードホール)，2018-柏崎第九演奏会（バス独唱＆合唱指導)、2018-上野正人バス・バリトンリサイタル

これまでの人生の中で，人との出会いほど大切なものは無いと実感しています。私が留学時に大変お世話になった先生の言葉に次のようなものがあります。「教えを受けたものは，それを請うものに伝える義務がある」。この言葉を常に肝に銘じ，出会いを大切にし，音楽の素晴らしさをたくさんの人に伝えていきたいと思って仕事に取り組んでいます。

代表的な論文・著書

- J.S.バッハの言葉と音楽−「マタイ受難曲」のバス独唱曲の分析−（上越教育大学研究紀要　第17巻2号，1998年）
- 研究プロジェクト【「地域貢献」と「学生支援」が融合した新しいかたちの合唱ワークショップの創出】の実践と検証−コーラスワークショップでのアンケートをもとに−（実技教育研究指導センター　平成18年度　実技教育研究Ⅰ，2006年）
- J.S.バッハの言語と音楽表現−J.S.バッハ作曲カンタータ56番《私は喜んで十字架を担おう》BWV56よりNr.1アリアの分析−（上越教育大学研究紀要　第31巻，2012年）
- 「思考力」を育てる−上越教育大学からの提言１−（上越教育大学出版会，2017年）
- 「実践力」を育てる−上越教育大学からの提言２−（上越教育大学出版会，2017年）
- 「思考力」が育つ−上越教育大学からの提言３−（上越教育大学出版会，2018年）
- 「実践力」が育つ−上越教育大学からの提言４−（上越教育大学出版会，2018年）

氏　名	教授　笠原 芳隆（かさはら よしたか） kasahara@juen.ac.jp
研究領域キーワード	特別支援教育（教育課程・指導法） 自立活動と肢体不自由教育を中心に
趣味・特技	日帰り温泉の旅 サッカー観戦（特に「アルビレックス新潟」戦）

自　己　紹　介

【 略　歴 】

1963 年 5 月→上越市（当時の高田市）に生まれる。雪に埋もれて育つ。
学校では柔道部，高校ではラグビー部に所属。**部活のみ**に生きる男だった。

1982 年 4 月→上越教育大学に入学。大学院（障害児教育専攻）修了まで 6 年間在学した。

1988 年 4 月→念願の新潟県公立学校教員に採用される。特別支援学校には 7 年間，小学校には 2 年間勤務。特別支援学校ではおもに肢体不自由児，病弱児，重度・重複障がい児の教育に携わった。また小学校では通常の学級の担任として勤めた。

1997 年 4 月→縁があって母校である上越教育大学に勤めることとなり現在に至る。

【研究領域】

(1)　肢体不自由児（重複障害児，病弱児を含む）の教育と指導法
(2)　自立活動の指導と個別の指導計画の作成･活用
(3)　移行支援と個別の教育支援計画の作成･活用
(4)　学校卒業後の自立生活･余暇支援

【重要情報】

◇ 新潟県及び隣県の先生方と**「上越自立活動研究会」**を立ち上げ，上越から全国へ**「自立活動の実践」**をはじめ**「特別支援教育の推進」**に関する情報発信を行う。また**「チームで進める特別支援教育」**をテーマとした**出前講座**も行っている。

◇ 肢体不自由のある人の動作改善をめざす**「上越動作法学習会」**に近隣の先生方と参加。

◇ 障害のある人が日頃の想いを書きつづった詩に曲をつけて発表する**「手づくりコンサート虹のメッセージ」**に参加。自称「歌をつくってドラムがたたけてギターが弾ける」ミュージシャンである(^_^)

◇ 肢体不自由のある青年たちと**「ナディアの会」**を立ち上げる。余暇活動や生活に役立つ学習活動などを本人とともに考えて実行している。沖縄旅行も実現！参加者募集中！

◇ 最後に（これは大切）**「ラーメン」**と**「うどん」**にはこだわりをもつ。
私のラーメン屋さんのイチ押しは･･･上越市高田高校の近くにあります！
そしてうどん屋さんのイチ押しは･･･上越市本町 4 丁目にあります！

代表的な論文・著書

○わかりやすく学べる特別支援教育と障害児の心理･行動特性．＜分担執筆＞「障害児(者)の基本的理解：肢体不自由（運動障害）」．北樹出版（2018）
○合理的配慮を実現するためのツールとしての個別の指導計画．実践障害児教育（2016）
○自立活動を中心とした個別の指導計画に関する研究動向．特殊教育学研究（2015）
○障害児･者のキャリア発達を促し主体性を高める地域活動の成果に基づくキャリア教育の内容と教員養成プログラムの検討．上越教育大学プロジェクト研究成果報告書（2015）
○特別支援学校における理学療法士と教師をつなぐコーディネーターの役割の実践的検討．＜共著＞上越教育大学特別支援教育実践研究センター紀要（2015）
○肢体不自由児が在籍している特別支援学校における理学療法士の活用について．＜共著＞特殊教育学研究（2013）

氏　名	教授　河合康(かわいやすし)　kawai@juen.ac.jp
研究領域キーワード	特別支援教育（行政・制度・歴史） 国際教育協力
趣味・特技	囲碁、水泳 テニス

自　己　紹　介

昭和36年長野県伊那市の出身で、教育史で著名な井沢修二の近くで幼少期を過ごす。小学校は現在、総合学習で有名な伊那小学校で学んだが、現在の教育体制になったのは私が卒業した翌年からなので、現在のような教育を受けていない。中学校では水泳部に所属し、県で２位にまでなったが、その後、趣味のレベルに留めてからは体重は増加の一途をたどり、今年の健康診断では「太りすぎに注意して下さい」との所見を受ける。

大学は筑波大学で心身障害学を専攻し、大学院の博士課程に進学した後、平成元年に上越教育大学の助手として赴任し、現在に至る。専門は特別支援教育の行政・制度・歴史を担当している。平成９年から平成10年にかけて10か月間、イギリスのマンチェスター大学に文部省の在外研究員として教育・研究や旅行など、外国の空気にふれることができたのは大変刺激になり、現在の教育・研究にも大きく役立っている。

その後、障害児だけでなく、「特別な教育的ニーズ」という観点からの研究を開始し、開発途上国に対する国際教育協力に関する教育・研究にも従事するようになる。特にインドネシアとパキスタンへの渡航経験が多い。どちらもイスラム圏なのでアルコールは禁止なので、酒好きの私には厳しかったが、パキスタンに比べてインドネシアの方がアルコールには寛容で、容易に入手することができた。一方、パキスタンは入手が困難であったが、日本人の経営するホテルに宿泊したので、そこでアルコールを堪能することができた。

趣味はテニスであるが、加齢と共に足首、膝、腰の痛みが増すようになり、昨年は５０肩となり、だんだんと体を動かす機会が減ってきたことにより、上述の肥満に繋がっている。もう一つの趣味の囲碁は体には関係ないので、常に楽しんでおり、日曜日の１２時からのNHKの囲碁講座が一番好きなテレビ番組である。

特別支援教育が専門であるが、特定の障害種に限定はしておらず、幅広く全体を鳥瞰し、特別支援教育の将来を展望するような研究を行っているので、興味・関心がある方は是非おいで下さい。お待ちしています。

代表的な論文・著書

・「わかりやすく学べる特別支援教育と障害児の心理・行動特性」河合康・小宮三彌編著　北樹社．2018

・「日本障害児教育史―戦前編―」（共著）　明石書店．2018

・「特別支援教育の到達点と可能性」　（共著）　金剛出版　2017

・「これからの学校教育を担う教師を目指す」　（共著）学事出版　2017

・「学校教育の戦後70年史」（共著）　小学館　2017

・「キーワードで読む　発達障害研究と実践のための医学診断/福祉サービス/特別支援教育/就労支援ー福祉・労働制度・脳科学的アプローチー」　（共著）福村出版 2017

氏　名	教授(H31.4 より)　小高さほみ(こだかさほみ)　sahomi@juen.ac.jp
研究領域キーワード	教育学　教師教育　授業研究　家庭科　ナラティブ 家政学原論　家庭経営学　家族　ジェンダー 質的研究　ライフヒストリー　実践コミュニティ
趣味・特技	写真撮影、温泉めぐり、散策、 からだにやさしい美味しい物を食べること 座右の銘？「みがかずば玉もかがみもなにかせん 学びの道もかくこそありけれ」(母校の校歌です。)

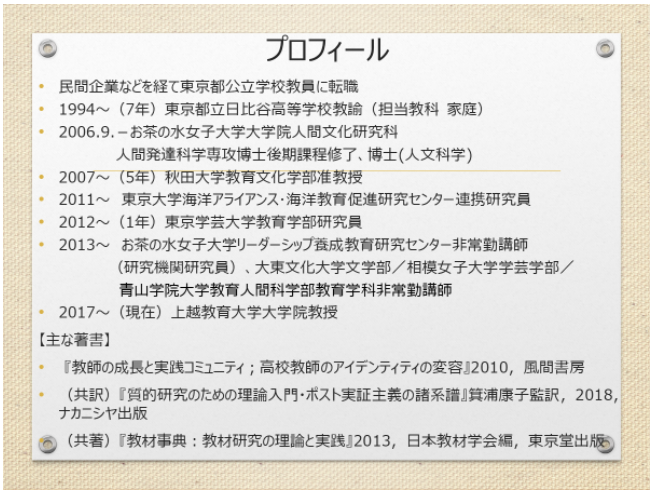
自　己　紹　介

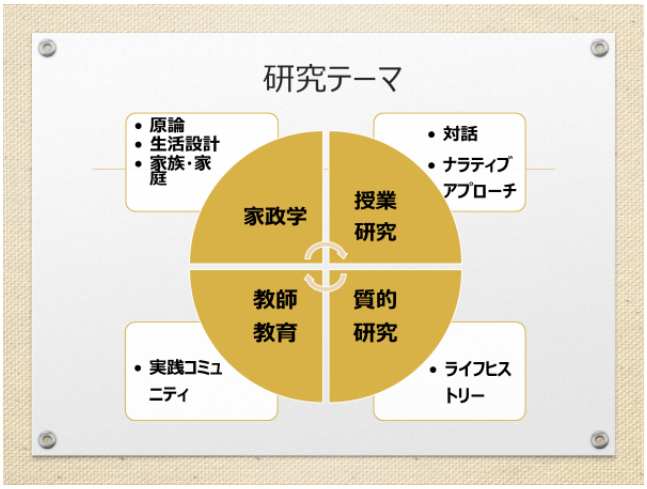
人の一生って不思議なものですね。自分の人生を振り返ると、あの時が節目になったり、失敗が転機になっていたり、あの時の出会いや別れが今のここにつながっていたり・・・。他者の人生を聴き取ると、社会変化、個人的な出来事など、様々なタイミングが重なり、新たな一歩を踏み出した、そのようなライフコースの軌跡が見えてきます。

高校時代、担任の先生から教員養成系大学進学を勧められるものの、当時の希望は別の職業。会社勤めをしながら教員免許を取得したのは 20 代後半。思いがけない**転機**は、女子差別撤廃条約批准などによって実現した高校家庭の男女必履修元年。新採の私は、「新しい家庭科」の指導書や実践事例集などの存在も知らず、授業づくりに熱中。リソースは、人事研修担当で出会った新しい学習観とＫＪ法、ゲーミング、シミュレーション等の手法。

高校教員時代は試行錯誤の日々―例えば、人生を見通し、家族関係をテーマにした授業は、ひとつの正解に向かうわけではありません。対話し考え続けることを重視した実践で、確かに手ごたえはあるけれど、そこで、生徒は何を感じ考え、どのような相互作用が生じ、何かが変容している／いないのだろうか。生徒たちの語り―話しことばも書きことばも―をどのようにとらえればよいのだろうか。疑問を解き明かしたくて研修、勉強会に参加し、図書館などで学ぶ中、わかっていないことがわかり、新たな道を模索した 30 代後半。

院生時代の「クル（苦）楽しい」－**さまざまな理論や概念、方法論に出会い、それらを会社や学校での経験とつなげて理解し、研究と向き合う苦しい楽しい―日々**は、導いてくださった恩師と語り合った院生仲間に出会えたからこそ、知りえた経験です。院生の皆様方が、新たな扉を開き、実践を省察・創造していけるように、対話していきたいと考えています。人生の後半、本学に職を得て移り住まうことになり、何か見えないものに導かれ、今ここにいる…人生の不思議さを感じ、新たな出会いを楽しみに大切にしたいと思っています。





氏　名	教授　周東和好(しゅうとう　かずよし)　shuto@juen.ac.jp
研究領域キーワード	体育科教育学、スポーツ運動学、動きの指導方法や教材の開発、体操・器械運動方法論、姿勢教育、体育授業の省察能力
特技・趣味	国際体操連盟男子体操競技審判員、赤十字救急法指導員、赤十字雪上安全法指導員、スポーツに関するドキュメント映像の収集

自　己　紹　介

体育科教育学の研究室です。体育の中核的な学習内容は動きの学習です。このことを踏まえて、より良い体育授業の実現のために、特に人間学的運動学（スポーツ運動学）の観点から、動きの学習指導に関する実践的な研究を進めています。これまでの大学院修了生らは、様々なスポーツ経験を背景にしており、自身の経験を踏まえつつ、運動・スポーツ種目における指導方法の開発やそのための幇助教材、授業モデルの開発を学習指導実践に基づいて行っています。

体育科授業における教師の省察能力の変容について、また、その能力の向上方法についても実践に基づいて検討しています。教員団体から依頼された研修の講師経験から、体育に関する研修の新たな方法を展開しています。学校における子供たちの姿勢については、潜在的な問題と言えます。上越市を中心に県内外でも姿勢教育の実践に取り組んでいます。

これまでの運動指導の経験に基づいて、幼児から大人までを研究対象としており、生涯に渡る運動・スポーツ活動と学習指導を視野に入れています。

現在、大学院生６人、学部生２人が研究室に所属しています。

依頼に基づいて、次のような教員研修会等を担当しています。

長岡市教育センター「器械運動の効果的な指導Ⅰ・小学校編」「同Ⅱ・中学校編」講師、

福島市教育委員会「幼児期体力向上アドバイザー」、

上越市教育委員会「子供の運動指導員養成講習会 1～3」「親子運動教室 1～3」講師

などを担当。

上越タイムス「連載コラム　子供運動教室」を執筆中。

代表的な論文・著書

【 論文・著書 】

1) 運動の指導法の共有と改善に関する実証的研究－後方宙返りの指導を対象として－，スポーツ運動学研究22:pp.1-11.

2) 一輪車乗りの指導方法の開発に関する実践的研究－直接幇助を用いない方法－，スポーツ運動学研究24:pp.89-107.

3) 鉄棒運動「踏み切り逆上がり」の幇助用具と練習方法の開発，スポーツ運動学研究26:pp.119-131.

4) バドミントンにおけるフォアハンドストロークの指導法に関する研究－運動類縁性と運動ファミリーの考え方に基づいて－，スポーツ運動学研究27:pp.33-45.

5) 競争相手との駆け引きを学ぶ長距離走の新しい学習指導過程の提案，体育学研究62:pp.49-70.

6) 保健体育における「21世紀を生き抜くための資質・能力」の「思考力」の捉え方に関する検討，上越教育大学研究紀要36-2:pp.657-675.

7) 反転授業の方法を取り入れた教員研修の実践－体育実技研修でのWeb教材活用の可能性－The Proceedings of the Sixth JAPAN-CHINA Teacher Education Conference:pp.11-20.

8) 教員養成における体育科目での e ラーニングコンテンツの活用－器械運動での反転授業の可能性

と課題－，上越教育大学研究紀要 37-1:pp.259-268.

9）中学校における姿勢教育プログラムの実践，日本スポーツ教育学会第 30 回記念国際大会 Proceedings:pp.263-267.

10）「思考力」を育てる—上越教育大学からの提言１—，上越教育大学出版会，pp.175-201.

11）「実践力」を育てる—上越教育大学からの提言２—，上越教育大学出版会，pp.151-172.

【 受賞 】

1）日本コーチング学会平成 28 年度優秀発表賞 受賞（平成 28 年 3 月）
「『回り道』の学習理論に基づく動きの指導－輪の水平回旋の習得事例－」

2）日本赤十字社銀色有功章 受章（平成 29 年 2 月）

指導した修士論文題目

・アイスホッケーにおける「リストシュート」の学習ステップに関する実践的考察
・跳び箱運動「かかえ込み跳び」の学習指導に関する実践的研究
・運動感覚に着目した「投げる」動きの指導に関する研究
・吊輪における「中水平支持」の感覚に着目した練習方法の開発に関する研究
・フラッグフットボールの学習段階に関する実践的研究
・バレーボールにおけるスパイクの指導法に関する研究
・ボール運動ゴール型に共通した基礎能力を育成する教材に関する実践的研究
・小学校における持久走の授業実践に関する研究－トレイルランニングに着目して－
・スポーツトレーニングにおけるマインドマップの活用方法に関する研究
～メンタルトレーニングに着目して～
・段違い平行棒における移動技に関する研究
・体操競技における技の習得方法に関する研究～平行棒「シャルロ」の習得を例に～
・ジャベリックスローの指導法に関する研究
・女子ミニバスケットボール選手におけるワンハンドシュートの指導法に関する研究
・一輪車乗りの指導法に関する研究
・鉄棒運動における「踏み切り逆上がり」に関する研究～幇助用具と練習方法の開発～
・バドミントンにおけるフォアハンドストロークの指導法に関する研究
～運動ファミリーと運動類縁性の考え方に基づいて～
・学校における姿勢の指導に関する研究
・柔道初学者のための導入段階における授業展開に関する研究
－中学校における武道学習必修化を契機として－

氏　名	教授　髙橋等(たかはし　ひとし)　hitoshit@juen.ac.jp
研究領域キーワード	数学教育学
趣味・特技	釣り，剣道，アコースティックギター

自　己　紹　介

1965 年秋田県秋田市に生まれる。大学時代まで秋田で過ごし，そのまま高校教員として就職する。３年間数学教諭として過ごした後，数学教育学の研究的視座をそのままにしておけず，筑波大博士課程に進学する。筑波では２年と 10 ヶ月過ごし，1997 年２月に上越教育大学に助手として採用され現在に至る。21 年目の上越の夏はやけに暑い。

多趣味で，釣り，剣道，アコースティックギターに時間を割く。時代小説，藤沢周平を好んで読む。釣りには最近は一人では殆ど行かないものの，修士ゼミで年に２回ほど釣り大会を催す。何故か釣り竿をたくさんもっており，院生に貸し出す。釣った魚は当方の宿舎で料理と化し，宴会へと突入する。

剣道は，大学の道場で学生や地域の方と稽古するのであるけれども，最近は，多忙のため殆ど足を運べていない。

アコースティックギターは学生時代にブームにのって趣味としていたものを，ほぼ 30 年ぶりに再開した。エレキの名手である数学の林田教員に誘われ，学生の前で演奏する羽目になったりしている。これは非常に恥ずかしい。

当方のもとで執筆された修士論文の殆どは，先ずは実践における問題意識と文献とから数学教育という現象を語る上での理論的視座を構築し，その理論的視座のもとで，授業実践や授業参観，子どもへのインタビューなどを実施し，解釈，考察し，知見を得るものである。研究をする上での実践における問題意識が最も大切で，それがしっかりしていれば靄がかき消えるように結論に至る。

当方自身の研究は，所謂，数学教育における暗黙知の研究である。情意やイメージが算数数学学習の際にどの様に働くか，どの様な価値観が形成されているか，数学教育実践において教員のもつ価値観としてどの様なものが望ましいのか，などを研究している。最近はこうした研究の関連でアイデンティティ研究において成果を得ている。

代表的な論文・著書

髙橋等．(2013)．算数に関し子どもが形成する素朴なアイデンティティの様態 ―Waku の場合―．数学教育学論究，95，217-224.

髙橋等．(2014)．小学生のもつ算数に関するアイデンティティ ― 二年生時から三年生時までの一貫性のあるものの特徴について ―．数学教育学論究，96，97-104.

髙橋等．(2015)．或る小学生のもつ算数に関するアイデンティティ―情意的要素を中心としたアイデンティティの連関性と学習観の転換―．日本数学教育学会誌，97(12)，4-15.

髙橋等．(2018)．関数史と我が国の中学校数学教科書における関数の定義の変遷―学校数学での関数の定義の扱い方への提案―．東北数学教育学会年報，49，3-16.

指導した修士論文題目抜粋

・中学校数学授業におけるメタディスコースの存在と様相に関する研究―変化の割合を教材としたデザイン実験を通して―
・現実性のある場面における子どもの小数の乗法及び除法の知識形成過程について―model の自己発達に着目して―
・算数授業における子どもの数学的知識の活用に関する研究―数学的モデル化過程に見られる推論と価値観に着目して―
・数学授業における中学生の情意の生成とその様相に関する研究―メタ情意の働きに関連して形成される数学的な価値観に焦点を当てて―
・中学校数学における生徒の文字式の記号論的認識過程に関する研究―Presmeg の記号論的連鎖を視点として―
・子どもの算数授業に対する態度とその変容―情意的領域を統合する新たな枠組みとしての態度への接近―
・算数授業における「練り合い活動」の構築と足場の働きに関する研究
・数学的問題解決における「ひらめき」に係わるメタ認知の働きに関する研究
・相互作用による子どもの分数の知識形成と規範性の関係に関する研究
・グラフ理論を教材とした中学生による数学的知識の社会的構成過程
・中学生による証明をする活動における思考過程に関する内言の様相
・算数授業への参加に困難性をもつ子どもへの教師の手立てと子どもの活動の変容―子どもによる役割の獲得に着目して―
・中学生の証明学習における argumentation の様相に関する考察
・資料の活用単元におけるグラフ電卓を使用した中学生の数学的モデリングに関する考察
・関数学習における子どもの知識の形成過程についての研究―モデルの発達の様相についての考察―
・割合単元における子どもの知識の形成過程について―固執 model の発達と役割―
・尋常小学算術の内容を今日的にした文章題の子どもの解決過程について
・手続き的知識と概念的知識とから見た高校生の数学的知識の形成過程について
・議論のある活動における中学生の証明する過程について
・有用性のある教材を扱った数学授業における高校生の認識に関する研究
・概念的知識と手続き的知識とから見た比例学習における子どもの知識の形成過程について
・小数の乗法の授業における相互作用について
・確率の授業における中学生の知識の形成過程に関する研究
・中学校数学における証明の正当化に関する研究
・算数の問題における絵図を用いた解決過程についての研究
・割合の学習における児童の思考過程についての研究
・数学的活動における数学化の過程の研究―樹形図とベン図を通した確率の意味の形成をもとにして―
・数学学習における相互作用過程に関する研究　―Sfard の焦点分析を柱として―
・実験を伴う関数の授業における子どもの思考過程について―数学的モデリングに着目して―
・小数の乗法と除法とにおける子どもの知識の構成過程について―子どもが比の三用法を活用していくまで―

氏　名	教授　山縣　耕太郎(やまがた　こうたろう)　kotaro@juen.ac.jp
研究領域キーワード	地理学，自然地理学，地形学，第四紀地質学，火山学，植物生態学，土壌学，水文学（河川，湖沼），人と自然との関わり，地球温暖化，沙漠化，ジオパーク，防災教育，環境教育，ESD
趣味・特技	旅行（特に旅先でその地域の名物料理と地酒を楽しむこと），登山，サイクリング，

自　己　紹　介

子供のころから，失われた大陸や世界の七不思議のようなものに魅かれ，高校時代に，当時はまだ教科書に載っていなかったプレートテクトニクス理論に触れ，その壮大な地球観に衝撃を受け，大学は，理学部地理学科に進学します．学部時代には，自転車部に所属し，４年間で沖縄県を除く全国 46 都道府県を自転車で旅しました．

学生時代は，地形学とくに火山や火山灰に関わる研究をしていました．卒業論文では現在の津軽海峡海底にある火山を発見し，銭亀火山と名付けています．修士論文，博士論文も北海道南西部の火山を対象に，層序区分と噴火史を検討しました．この時期は，年間 2～3 ヶ月フィールドにどっぷりつかることができた懐かしい時代です．

博士課程の途中で上越教育大学に採用され，以来 25 年以上，上越で暮らしています．現在所属しているのは，修士課程社会系教育実践コースです．学生時代を理学部で過ごしてきたため，初めは戸惑いましたが，同僚の先生方とのお付き合いや，学生指導，様々な共同研究プロジェクトへの参加を通して視野を広げてくることができました．特に様々な分野の研究者と協力した海外研究は，貴重な経験です．これまでに，ロシア，中国，ナミビア，セネガル，ボツワナ，南アフリカ，ケニア，ボリビアなどで調査研究を行ってきました．

研究内容としては，地形学，火山学ばかりでなく，地質学，植物生態学，土壌学，河川や湖沼，地下水などを対象とした水文学，雪氷学，環境史の研究に関わってきました．教育に関わるところでは，地理教育，エネルギー環境教育，防災教育に関わる仕事をしています．防災教育では，国土交通省高田河川事務所と協力して野外学習を含めた授業実践を毎年行っています．また，海外調査の中で，発展途上国における地球温暖化や沙漠化の厳しい状況を見てきたことによって，グローバルな視点に基づく ESD にも強い関心を持つようになりました．さらには，これまでに伝統産業，農業，商業地理，交通，港湾，観光，エネルギー，水利用，災害復興などの人文地理学的，社会科学的内容の卒論・修論も指導してきました．

このように，私は，広い範囲に興味関心を持っています．地理学，自然環境，人と自然の関係などに関する研究したいと考えているみなさん，一緒に学びましょう．ぜひ気軽に相談に来てください．お待ちしています．

代表的な論文・著書

主な著書：「上越市史資料編Ⅰ自然」，上越市，（分担執筆，1996）；「百名山の自然学」，古今書院，（分担執筆，2002）；「東アジアの歴史表象」，清文堂出版，（共著，2002）；「アフリカ自然学」古今書院，（共著，2005）；「新潟地図ウォッチング」，新潟日報業社，（分担執筆，2006）；「地域と地理教育」，協同出版，（共著，2007）；「日本の地誌6首都圏Ⅱ」，朝倉書店，（分担執筆，2009）；「日本地方地質誌Ⅰ北海道地方」，朝倉書店，（分担執筆，2010）；「アフリカ学事典」昭和堂，（分担執筆，2014）；「ぶら高田」，北越出版，（共著，2014）；「シリーズ大地の公園　中部・近畿・中国・四国のジオパーク」，古今書院，（共著，2015）；「アンデス自然学」，古今書院，（共著，2016）；「社会科教科内容構成学の探求」，風間書房，（共著，2018）

氏　名	特任教授(H31.4より)　佐藤賢治(さとうけんじ)　satoken@juen.ac.jp
研究領域キーワード	キャリア教育　特別支援教育とキャリア教育　食育 学校経営　生徒指導　家庭教育　保護者指導
趣味・特技	篆刻　魚をおろすこと　妙高登山　雑学 美味しい物を食べること (本当に美味しい物は、身体に良い物)

自　己　紹　介

通称サトケンと自らも呼ぶ。サトケンと呼ばれるようになったのは小学校６年生時代から。以後、友人や同僚・生徒・保護者からもサトケンで通っている。佐藤と言う姓が日本で一番多い名字であり、賢治も多いのでサトケンが極めて都合がよかった。過去に勤務した学校で職員にサトウケンジが３人おり、この時は非常に有効であった。

上越教育大学での私の仕事は、学校現場と大学を結ぶコーディネーター役で、平成24年度末で春日中学校退職後に上越教育大学の教職大院学校支援プロジェクトのコーディネーターを主たる任として採用され、５年間勤務。今年度は新設の上廣道徳教育アカデミーの研修支援コーディネーターとして勤務中。平成31年度からは当教職キャリア支援コースで学校や教育委員会とのパイプ役のコーディネーターや、院生の皆様のサポート役を務めることになっている。

新潟県の中学校教員として37年間勤務(12校)し、学校の地域環境はバラエティーに富んでいる。勤務した12校の内、生徒指導困難校と言われた学校は軽重の差はあるものの５校（幸いにも私の勤務している段階でその多くは改善に向かった)。普通の大学の先生方のように理論家では全くないが、幅広い勤務校での経験を基にした学校現場で役に立つことを院生の皆様方のお伝えしたいと考えている。

雑学的好奇心が旺盛で、その性格が保護者対応においても生かされた。

また、大学においては研究室の入り口に右のような看板を掲げ、現職院生や教採を受検する学生・院生のサポートをしている。

サトケンの教育よろずクリニック

学級経営や生徒指導・教科指導で悩んでいませんか？
保護者や同僚、はたまた管理職との関係に悩んでいませんか？
教師は人間相手の仕事。トラブルあるのが当たり前。
さあ！一人で悩まないでこのドアを叩いてみませんか！
サトケンがあなたのお手伝いをします！

サトケン　クリニックの概要

・クリニック開設住所……ここです(人３１７)
・クリニック開設時間……サトケンが暇な時(結構暇してます)
・要予約……事前にメールを<satoken@juen.ac.jp>
・診察料・治療代・薬代……無料
・入　院……施設が無いため不可
・往　診……無(但し、縄暖簾等あり)
・投　薬……必要に応じて処方します（課題がでるかも！）
・定休日……不定休（サトケン不在の時）
・定　員……原則１～４名(女性は可能な限り２人以上で)

代表的な論文・著書

・「特別な支援を必要とする児童生徒の進路指導とその課題」佐藤・河野（上越教育大学研究紀要第35巻H28．3）
・「学校管理職に必要な力量はいかに定義されるのか」佐藤・河野・辻野（上越教育大学研究紀要第36巻1号H28．9）
・「キャリア教育の視点に立った特別な支援を必要とする児童生徒のための進路指導」河野・佐藤（上越教育大学研究紀要第36巻2号H29．3）

氏　名	准教授(H25.11より)　安部　泰(あべ　やすし)　abeyasu@juen.ac.jp
研究領域キーワード	グラフィックデザイン　イラストレーション 美術教育　デザイン教育
趣味・特技	魚釣り（渓流から海まで／主にルアー＆フライ） 魚料理（神経締め出来ます）　雑学的思考の組立 座右の銘？は「そのうちなんとかなるだろう， （なんとかしようとしているならば）」

自　己　紹　介

高校時代は勉強に興味が持てず，３年次には赤点が続いた為に親を呼び出され，校長室で説教されて（２回）卒業した経験あり。卒業後は簿記の専門学校でも行こうかと考えたが，図画工作や美術は得意であったので美術系予備校で１年浪人した末に芸術系大学へ入学した。一応センター試験が課されていたが，対策として五角形の鉛筆を探したことを覚えている。在学中に魚のイラストを描き始め，常連だった居酒屋では「作品払い」で呑んでいたこともある。卒業後は就職氷河期の始まりでもあったことから大学院へ進学。修了研究を，しょっちゅう釣行していた「琵琶湖の魚のイラストレーション」としたところ，指導教員から「現地に在住するべし」（呑み会にて）と助言されたため，翌週には滋賀県へ引っ越し，名古屋近郊の大学へは週に１回程度しか通学しなかった。大学院修了時も氷河期であったことと，引っ越し費用を捻出できなかったので滋賀に残留。琵琶湖博物館ミュージアムショップに商品のアイデアを持ち込み，販売にこぎつけたことでフリーランスのデザイナーとなる。その後，非常勤講師等を兼任していたが，NHK の特集番組により自らが「ワーキングプア」であることに気づき，常勤の仕事を探す中で本学に採用された。

大学においては，教科専門の立場からデザイナーの思考や実践を学校教育の現場に活用することを試みている。学生指導においては，専門学校でゲームデザイナー等を養成し，キャラクターデザインや背景作画を指導した経験が役に立っているが，本学学生のオタク度が低いことが不満である。大学院担当として修士論文の指導もすることになったが，個人的にはデッサンと論文作成は似た構造を持っていると感じている。

学生指導以外では，大学広報も担当。「デザイン相談ルーム　主任相談員」として大学全体の広報アイテムの作成や，他コースからの相談にも応じている。

上越に来て１０年になるが，着任時には躊躇した「潟」の字を書き慣れたこともあり，徐々に新潟県民になっていると感じる。とはいえ，よそ者の視点を維持して地域に貢献することも大切だと考える。

職場から釣り場が近いのがお気に入り。ゼミの学生たちは，日中に私を学内で見かけても夕方になると居ないことを熟知しており，日が沈んでから研究室を訪ねてくることが多い。

略歴｜1975-愛知県生まれ，1999-愛知県立芸術大学美術学部デザイン・工芸科デザイン専攻卒業，2001-愛知県立芸術大学大学院美術研究科デザイン専攻修了，2001～’07-フリーランスとしてイラストレーター及びグラフィックデザイナー，2004～’07-愛知県立芸術大，トライデントコンピュータ専門学校非常勤講師，2007～’13-上越教育大学講師，2013～現在-上越教育大学准教授

展覧会/個展｜2002-滋賀県多賀町立博物館，2003-滋賀県能登川町立博物館，2004-スペースプリズム（名古屋市），2013-ギャラリー祥（上越市），2015-琵琶湖博物館内「新空間」，他

受賞｜JAPAN POSTER GRANDPRIX　2000 準グランプリ及び入選，JAPAN POSTER GRANDPRIX　2002 準グランプリ，他

所属｜日本デザイン学会　大学美術教育学会
中部クリエーターズクラブ

代表的な論文・著書

・「美術教育におけるデザインの意味の変遷に関する一考察」
　安部　泰，西村俊夫（上越教育大学研究紀要第31巻　2012年2月）

・「『水辺』に目を向けさせるイラストレーションの研究（１）」
　安部　泰（愛知県立芸術大学大学院美術研究科博士後期課程　研究報告書(Vol.１　)2010年3月）

・「図画工作・美術科における『21世紀を生き抜くための能力』の『思考力』の捉え方」
　安部　泰，他５名（『「思考力」を育てる-上越教育大学からの提言１-』上越教育大学　出版会　2017年6月）

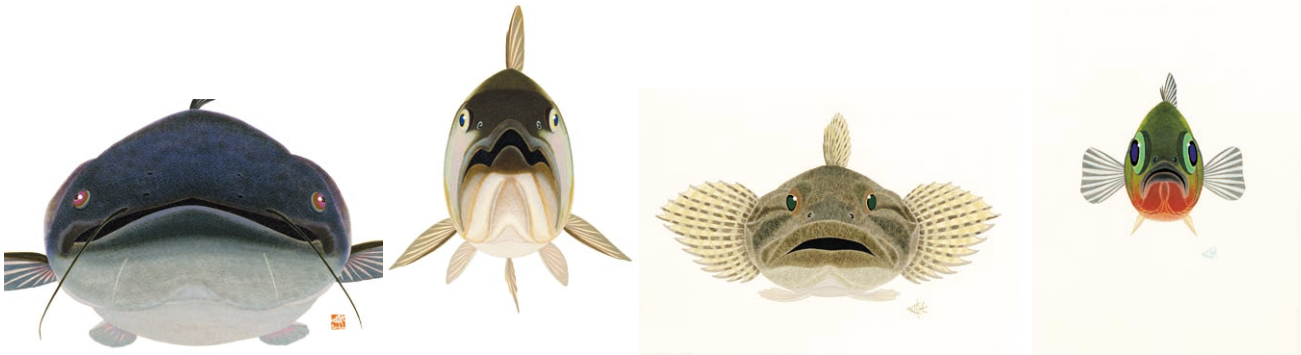
・「図画工作科・美術科における『２１世紀に求められる能力』の『実践力』の捉え方」
　安部　泰，他５名（『「実践力」を育てる -上越教育大学からの提言２-』上越教育大学出版会　2018年1月

・「『２１世紀を生き抜くための能力』の『思考力』を育成するデザイン教育　-『自分のマークをデザインする』の授業実践を例に-」
　安部　泰（上越教育大学出版会　2018年2月）

・「『２１世紀を生き抜くための能力』の『実践力』を育成するデザイン教育　-『パッケージデザイン』の授業実践を例に-」
　安部　泰（上越教育大学出版会　2018年2月）

代表的な作品

・「水辺の肖像」シリーズ
　（イラストレーション，ポストカード　2001年～現在に至る）



・「妙高芸術祭四季彩芸術展」グラフィックデザイン
　（ポスター，募集要項，DMデザイン　2013年～現在に至る）

・上越教育大学ユニバーシティ・アイデンティティのデザイン
　（コミュニケーションマーク，ロゴタイプ，マニュアルの策定，他　2014年）

・滋賀県立琵琶湖博物館ミュージアムショップおいでや　ロゴマークのデザイン
　（ロゴマーク，イラストレーション　2018年）

氏　名	准教授　　池田吉史(いけだよしふみ)　　yosifumi@juen.ac.jp
研究領域キーワード	心理学　認知　アセスメント　自己コントロール 特別支援教育　知的障害　発達障害
趣味・特技	釣り　テニス　スキー　ドライブ　サッカー観戦

自　　己　　紹　　介

【パブリック】

平成２６年度から上越教育大学特別支援教育コースの教員を務めています。

知的障害や発達障害の心理アセスメントと支援をテーマに研究を進めています。大学院生の頃から取り組んでいる研究テーマは、「実行機能」と呼ばれる自己コントロール能力です。これは、目標を立てる、手順を考える、手順通りに行動する、手順を修正するといった要素を含んでおり、いわば自己の行動のＰＤＣＡサイクルを回すのに重要な能力です。一方で、気持ちのコントロールも実行機能に含まれると言われています。実行機能は、子どもの学習面、生活面、社会面のすべてに密接に関わると考えられています。

発達障害や知的障害の子どもたちは実行機能に弱さがありますが、それが学習面、生活面、社会面のどのような弱さと密接に関連するのかを心理学課題（脳トレに含まれるゲーム、行動観察チェックリスト）を通して解明することが研究テーマの一つです。別のテーマは、実行機能の弱い子どもへの支援方法の開発です。そこでは、子どもたちの実行機能の発達段階に合わせる、その弱さを補う方法を身につけるといった考え方が重要だと思います。

授業のユニバーサルデザインを考えるときも、子どもの認知の個人差にいかに対応できる授業づくりをするかが重要だと思いますが、そのためには認知発達について理解を深めることがとても重要なのではないかと最近は考えているところです。

小・中学校、特別支援学校等での現職経験はありません。大学院生の時に、週に１日ずつ附属特別支援学校と附属小学校でボランティアをしながら勉強をさせていただいていました。現場の先生方が感じている実践での気づきを活かしながら、子どもたちの支援につながる研究をしていければと思います。

【プライベート】

佐賀県佐賀市の辺り一面田んぼの環境で生まれ育ちました。大学進学とともに東京に出て、ビルマ語を少しかじりました。バイトも高田馬場にあるミャンマー料理で、ミャンマー旅行にも３度訪れました。ミャンマー人のほほえみと心の温かさに癒されました。学生時代はよくバイク（私はバリオスⅡというスポーツタイプ）で山や海、温泉、東京タワーなどいろいろなところに出かけました。スポーツはテニスや野球、サッカーが好きで、ホークスやサガン鳥栖を応援しています。最近は、週末はもっぱら釣りに出かけています。主にアジやカサゴです。冬場はスキーをします。上越で生活をするのに適した人間なんだと思います。

代表的な論文・著書

・池田吉史．知的障害児の自己制御の支援．森口佑介（編著）『自己制御の発達と支援』，金子書房，2018年9月．☆研究室ＨＰがあります（http://www.juen.ac.jp/lab/yosifumi/）

氏　名	准教授(H31.4 より)　佐藤将朗(さとうまさあき)　smasaaki@juen.ac.jp
研究領域キーワード	視覚障害　重複障害　感覚系支援　読み　福祉教育
趣味・特技	テニス(本格的)　ランニング(20 分だけ) 筋トレ(5 分だけ)　お酒(いくらでも) キッズドラマ・アニメ分析(発達段階ベースで)

自　己　紹　介

幼少のころから視覚障害者と接する機会がありました。目が見えないのに点字が読め、人と楽しそうに会話をしている姿を見て、なんとなく凄いと思っていたように思います。中学校、高校と英語が好きで大学でも英語を専攻していたのですが、英語はツールとして使えればよいことに気づき、大学院進学を機に障害科学の道に進みました。ここから私の視覚障害の専門がスタートし、点字触読の研究に取り組むことになりました。

大学院の指導教官は、指導の厳しさに定評のある全盲の先生でした。言葉での理路整然としたやり取りの水準に、私自身が全く達していなかったため、情けない大学院生活を送っていたものです。先生と廊下ですれ違いそうになった時は、気づかれないように様に思わず息をひそめていましたが、先生は私のことを気配で察しており、完全にバレていました。

本学に着任するまで介護福祉士、保育士、理学療法士の養成に携わっていました。その中で障害科学に携わる他職種の方と議論し、特別支援教育を他職種の立場から考え直す機会を得ることができたことは、私の専門に役立っています。例えば、視覚・重複障害児への指導において人体の構造と機能を理解した上で感覚系へアプローチすること、重度重複障害児やその保護者様と関わる際に支援者自身の支援哲学が明確であること、視覚障害者と晴眼者の望ましい交流の在り方について検証していくことなど、支援者として幅の広い視点と問題解決のための術を高い水準で持ち合わせていることが、大学院で学ぶ学生に必要です。このような経験を積んだ今の私を、大学院時代の私はうらやむことでしょう。

現在大学では視覚障害教育や視覚障害心理に関する知見をベースとして、視覚障害児の指導だけでなく、重複障害児の指導についても教えています。視覚障害教育の問題を深く追求していきたい方、視覚障害児の問題だけでなく重複障害児の見え方の困難性、各感覚系への支援、読みの指導に興味・関心のある方、また障害児の周りの子ども達への福祉教育について学びたい方も、是非ご連絡ください。お待ちしています。

略歴

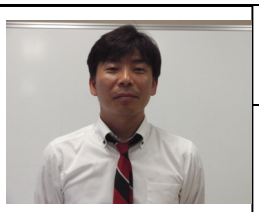
1973-埼玉県川口市生まれ
1996-文教大学文学部英米語英米文学科卒業
2002-筑波大学大学院博士課程心身障害学研究科心身障害学専攻単位取得満期退学
2002-つくば国際短期大学人間生活学科専任講師
2005-つくば国際短期大学保育科専任講師
2008-植草学園大学保健医療学部理学療法学科准教授
2016-上越教育大学大学院学校教育研究科特別支援教育コース准教授 現在に至る

学位

修士(心身障害学・筑波大学 1998)
博士(障害科学・筑波大学 2015)

代表的な論文・著書

・佐藤将朗(2017) 点字触読研究の展望―点字の読みやすさに関する研究知見の指導実践への応用―. 特殊教育学研究, 55, 47-56.
・佐藤将朗・大庭重治(2017) 視覚・重度障害児の実態把握と指導実践におけるＣＶＩレンジの活用に関する考察. 上越教育大学特別支援教育実践研究センター紀要, 23, 65-73.
・佐藤将朗(2015) 重度視覚障害者への触読支援についての一考察―点字触読研究からの福祉心理学的提案―. 福祉心理学研究, 12, 54-63.

氏　名	准教授　村中 智彦（むらなかともひこ） muranaka@juen.ac.jp	
研究領域キーワード	知的障害、自閉症スペクトラム障害 情緒障害（場面かん黙等）、発達障害 指導法、応用行動分析、学習心理学	
趣味・特技		

自　　己　　紹　　介

【生年等】 1971 年　広島県呉市生まれ。3 児の父親

【最終学歴】 1997 年 3 月　広島大学大学院学校教育研究科障害児教育専攻修士課程修了

【職歴】 1996 年 4 月　広島市社会福祉事業団広島市北部障害者デイサービスセンター指導員（平成 9 年 3 月まで）。1997 年 4 月　上越教育大学助手、その後、講師を経て准教授（現在に至る）

【研究領域】 知的障害、自閉症スペクトラム障害、情緒障害（場面かん黙等）や発達障害のある子どもたちの指導法です。応用行動分析の立場から、子どもの適切な活動参加を高め、不適切な行動を低減させるための臨床研究（実験、実践）を行っています。近年、特別支援学校や支援学級、通常の学級での授業づくり、協同学習に関する研究に力を入れていますが、修士論文では幅広いテーマに対応しています。地域の療育や学校等への地域支援活動を数多く行っています。

【修士論文指導のスタイル】「研究したい」「障害のある子どもと関わりたい」という強い「動機」を持つ、研究テーマを一緒に考えることを重視しています。日常や指導場面における教育事象の分析作業、発見を大切にしています。研究活動を通じて、子どもや自分自身と向き合い、「成長できるプロ支援者」の育成が目標となります。

【資格】博士（学校教育学）　学校心理士 SV　特別支援教育士

代表的な論文・著書

【近年の著書】

「わかりやすく学べる特別支援教育と障害児の心理・行動特性：授業づくり・支援ツール、情緒障害、自閉症スペクトラム障害」（分担，北樹出版，2018），「発達障害事典：機能と言語行動，チームアプローチ」（分担，丸善出版，2016），「困ったからわかる，できる授業づくり」（編著，明治図書，2015），「知的障害児の指導における課題遂行の促進」（溪水社，2015），「学び合い，ともに伸びる授業づくり」（編著，明治図書，2013）．

【近年の論文】

＜2017＞知的障害者入所施設における利用者主体の余暇支援－利用者同士のやりとりにもとづく選択機会の設定－．『発達障害研究』　情緒障害の概念に見られる臨床的意義．『上越教育大学研究紀要』

＜2016＞学校介入による特別な支援を必要とする児童の授業準備行動の促進．『特殊教育学研究』　特別支援教育の授業づくり．『発達障害研究』　特別支援学級に在籍する特別な支援を必要とする児童の宿題遂行と提出の促進．『特殊教育学研究』

詳しくは大学 HP　http://staff.juen.ac.jp/profile/ja.850720c31a73284160392a0d922b9077.html

氏　名	八島　猛（やしま　たけし）　Mail: yashima@juen.ac.jp
研究領域キーワード	特別支援教育，自尊感情，有能感，価値観， 教科学習指導，病弱児
趣味・特技	仕事,散歩

自　　己　　紹　　介

【職　歴】

- **特別支援学校教諭**：知的障害，肢体不自由，病弱の子供が在籍する特別支援学校（高等部・専攻科）に5年間勤務しました。
- **国立病院機構児童指導員**：小児病棟（慢性的な病気の子供が入院している病棟），重症心身障害病棟（重度の知的障害と重度の肢体不自由を併せ有する子供が入院している病棟），筋ジストロフィー病棟に児童指導員，医療相談員として8年間勤務しました。
- **上越教育大学教員**：主に特別支援教育分野の病弱・身体虚弱領域の授業を担当しています。

【現在の研究】

- **病気（ぜんそく，皮膚疾患，学習障害，ADHDなど）の子供に対する教科学習支援**：病気の子供に対して数学，国語など主要教科の学習支援を，1週間に1回行っています。教育実践をとおして，病弱の子供が主体的・意欲的に学習活動に取り組むための指導支援について検討しています。
- **病気の子供に対する対人関係支援**：病気の子供同士がレクリエーション活動を行う教室を，1カ月に1回，開催しています。この活動をとおして，参加者の対人関係の支援及び参加者の保護者に対する支援について検討しています。
- **濃厚な医療を必要とする長期入院児（筋ジストロフィー，重症心身障害など）に対するコミュニケーション支援**：長期入院児の中には，自分の考えを相手に伝えることが難しい子供がいます。病院または学校スタッフとの連携・協力のもとに，こうした子供とのコミュニケーションの円滑化について検討しています。

【指導学生の修士論文】

- 脳性麻痺のある生徒を対象とした認知特性に基づく数学科における自己調整学習の支援に関する事例的研究
- 超重症児の感覚系に注目した表出行動を促す指導と評価に関する事例的研究
- 特別な教育的ニーズのある生徒の自尊感情に配慮した学習支援に関する事例的研究

代表的な論文・著書

八島猛・大庭重治（2017）青年初期における自己評価の発達と機能に関する縦断的研究．育療，62，1-11.

八島猛・大庭重治・葉石光一・池田吉史（2017）青年初期における自己認知の発達に関する横断的研究：自尊感情，コンピテンス，重要度評価の観点から．上越教育大学特別支援教育実践研究センター紀要，23，79-85.

八島猛（2018）病弱・身体虚弱．河合康・小宮三彌（編），わかりやすく学べる特別支援教育と障害児の心理・行動特性，北樹出版，127-137.